

# 都筑の旧家、中山恒三郎家所蔵資料 プレス発表会

近年稀にみる、豪商の古記録を現地で初公開

—明治時代の建築と伝えられる書院と店蔵も同時公開—



資料が保管されていた書院(左)と店蔵

どちらの建物も明治時代に建てられた歴史的な建造物。書院は、書斎や接客に使用された。店蔵は商品を保管した建物で、1階は店舗として使用された。これらの建物に江戸時代後期から昭和におよぶ数万点の資料が保管されてきた。

## 1. プレス発表会の概要

**主催** 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団（横浜市歴史博物館・横浜開港資料館・横浜都市発展記念館）・中山恒三郎（なかやま・つねさぶろう）家

**日時** 平成 29 年 4 月 28 日（金）13 時 30 分～14 時 30 分（受付 13 時～）

**場所** 横浜市都筑区川和町 890 番地 旧中山恒三郎家敷地  
（地下鉄グリーンライン川和町駅下車、徒歩 15 分）

**内容** 中山家の書院や店蔵に幕末以来、保存されてきた古記録・写真・モノ資料の内、主な資料を書院で初公開するとともに、総点数数万点に及ぶ資料の今後の整理計画について発表します。あわせて明治時代の建築と伝えられる歴史的建造物である書院・店蔵などの建物を公開します。

※4月28日（金）のプレス発表をおこなった後、4月30日（日）の10時30分から16時（受付は15時まで）までの間、一般の方を対象にした資料と建物の公開をおこないません。

## 中山家案内図



## 2. 中山家について

中山恒三郎家は、江戸時代から都筑郡川和村に居住した中山一族の流れを引く家で、幕末期に初代恒三郎が中山五蔵家から分家し新宅となった家である。その後、初代恒三郎は明治 17 (1884) 年に死去し、現在の健氏は新宅の 5 代目にあたる。この間、中山家は菊の栽培をおこない、明治時代になると大隈重信・松方正義などの大物政治家と菊の栽培を通じて交流を繰り返し広げた。また、大正時代には中山家が開催した観菊会に多くの人びとが東京や横浜市街地から足を運ぶようになった。

一方、中山家は地域経済の発展にも貢献し、明治時代以降、塩・醤油・酒・煙草などの販売に従事し、この地域の経済の活性化に大きな役割を果たした。さらに、明治 29 (1896) 年には製糸場を運営する太陽合資会社を設立し、同社が生産する生糸は横浜の生糸貿易商の手を経て遠くアメリカに輸出された。

## 3. 中山家所蔵の資料（古記録・モノ資料）について

書院やいくつかの蔵に保存されてきた資料は、総点数が数万点に達すると思われる、これまでに所在が確認されてきた市域の旧家の所蔵資料と比較しても、これほどの量と質の資料群は数えるほどしかない。また、市域の旧家の資料には、高度成長や都市化の過程で散逸・廃棄されたものが多く、今後、中山家のような資料群が発見されることはないと思われる。

資料の内、その中心をなす古記録の内容は、①幕末から戦前まで中山家がおこなってきた菊栽培に関する記録、②中山家の商売に関する記録、③製糸会社の経営帳簿、④江戸時代の川和村に関する絵地図、⑤明治初年の川和村の戸長役場文書、⑥歴代当主が記した日記、⑦それぞれの時代に撮影された写真などである。今後、整理が進む過程でこの他にも貴重な記録が見出される可能性が強いが、ここに掲げたものだけでも市域北部の江戸時代後期から戦前に至る地域の歴史を明らかにすることができる資料群であることは間違いない。

次にモノ資料については、中山家がおこなった幅広い商いを物語るさまざまな商品のデッドストックを始め、醸造していた醤油の銘柄の醤油差しや片口、酒類の木箱や販促として使われた酒器やグラス、茶業を営んでいたことがうかがえる大きな茶壺、たばこを運搬した箱車の荷台、そして中山家で使われていた生活用具など、実に多種多様な品々が残されている。

## 4. 資料の整理計画

上記の資料群は、現在、整理をするために、古記録・写真は横浜開港資料館、モノ資料の一部は横浜市歴史博物館で保管し、公開に向けての整理が始まっている。整理終了までには 10 年以上の期間が必要であるが、整理ができたものから順次、両施設において展示などで市民に公開していく予定である。

## 5. 主な公開資料

### ①中山家でおこなわれた観菊会



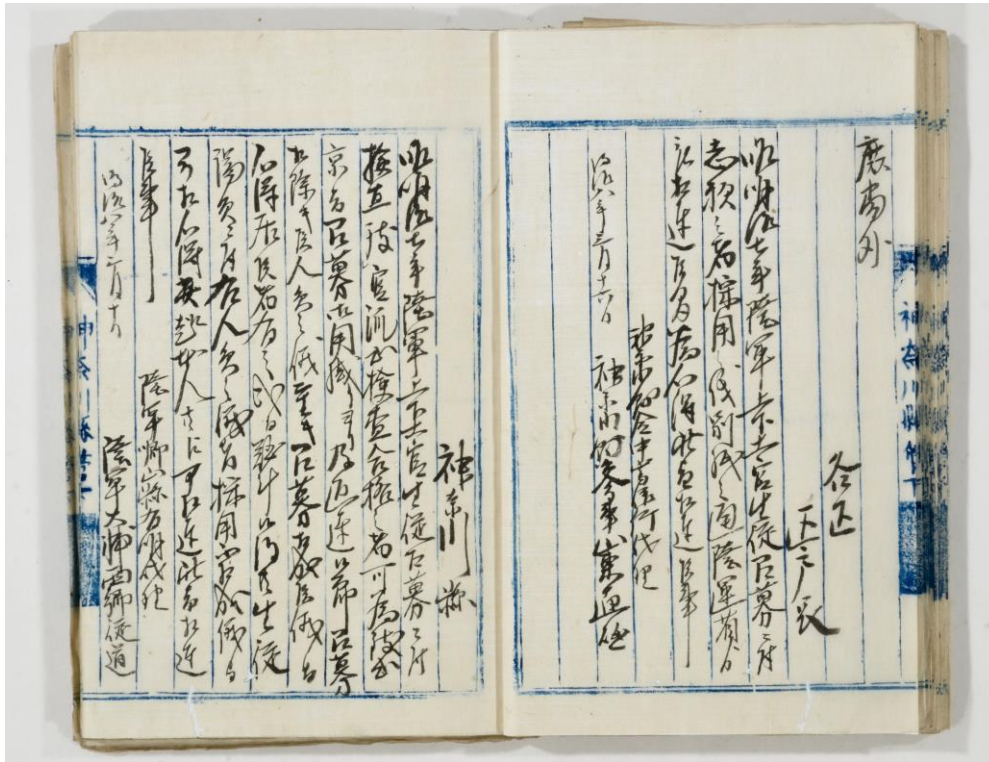
中山家では毎年秋に観菊会が開催された。敷地内には東屋などが作られ、東京や横浜から多くの人びとが中山家を訪れた。これらの人びとのなかには著名な政治家である大隈重信や松方正義、神奈川県知事や横浜市長をつとめた周布公平や有吉忠一、北白川宮などの皇族もいた。

### ②川和村絵図



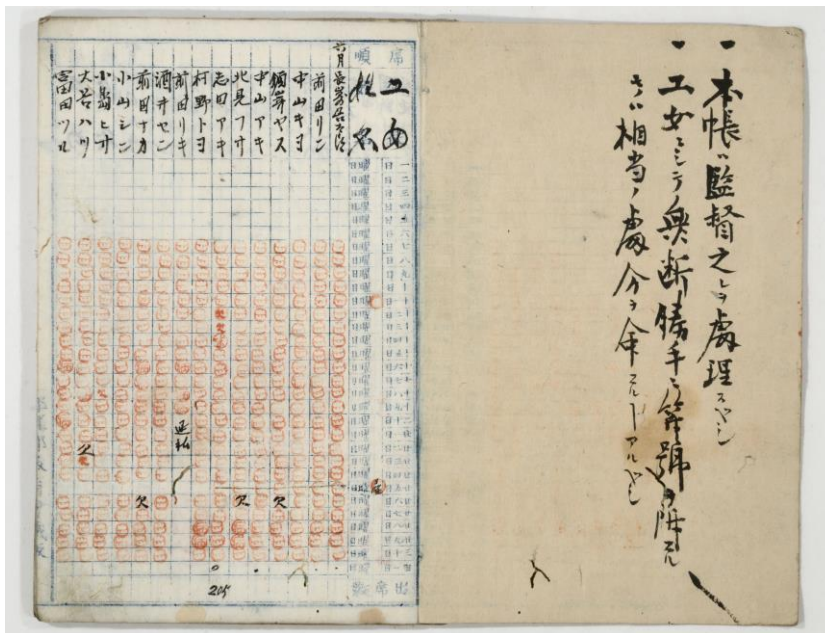
江戸時代の川和村を描いた絵図。田や畑が色別に図示され、寺社などが描かれている。こうした絵図が残されたことによって、当時の村の様子を復元できる。

③御達留



現在の村役場にあたる小区会所で、明治8（1875）年に作成されたもの。政府や県からの通知や指示が写し取られている。見開き頁には、陸軍士官や下士官の任命について政府が発した文書が書き留められている。

④製糸工場の出勤簿



中山家が経営した製糸工場で使用された。工女ごとに出勤した日に印が捺してある。

●当日取材ご希望の方は、事前に下記のお問い合わせ先へご連絡ください。

お問い合わせ先			
横浜開港資料館	中山家資料担当	吉田 律人	TEL 045-201-2169

\* 画像データをご要望の場合は右へ、ご連絡ください。横浜開港資料館 田中（広報） TEL : 045-201-2100